

## 2018 年度(シラバス)

科目名	メディア・ジャーナリズムプログラムデザイン特論	単位数	2単位
		担当教員	天野一哉
<b>【授業概要】</b>			
<p>あなた（私）は世界に対してなにを為すのか。社会をどのように再構築したいのか。メディア・ジャーナリズムの授業（ジャーナリスト養成または初等中等高等教育におけるメディアリテラシー等）を研究し、授業計画を立案することにより、「世界に行為する個」の実践を試みる。</p> <p>1年次に「ルポルタージュ研究」（ベーシック）、2年次に本科目「メディア・ジャーナリズムプログラム演習」（アドバンス）を履修することで系統的学修ができる。受講対象は、大学や専門学校でジャーナリスト養成に携わりたい人、初等中等教育および社会教育においてメディアリテラシー等の「思考力・表現」に関する授業を計画している人、社会の変革を画している人等。</p>			
<b>【授業の到達目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディア・ジャーナリズムの社会的文化的意義を認識する。</li> <li>2. メディア・ジャーナリズムを批判的思考で分析する。</li> <li>3. 授業企画および授業実施の能力を身につける。</li> </ol>			
<b>【授業計画】※以下に示す回数は 15 回(2 単位)の講義内容を想定した学修量を示す。</b>			
第 1 回 メディア・ジャーナリズムの社会的文化的意義			
第 2 回 メディア・ジャーナリズムの課題			
第 3 回 メディア・ジャーナリズムの展望			
第 4 回 ジャーナリストの資質能力			
第 5 回 メディアリテラシーの教育的位置づけ			
第 6 回 授業企画書 1(テーマ設定)			
第 7 回 授業企画書 2(構成)			
第 8 回 授業企画書 3(プレゼン)			
第 9 回 授業企画書 4(相互評価)			
第 10 回 授業企画書 5(省察・修正)			
第 11 回 授業実践 1(プレゼン)			
第 12 回 授業実践 2(相互評価)			
第 13 回 授業実践 3(省察・修正)			
第 14 回 展望			
第 15 回 まとめ			
<b>【スクーリングでの学修内容】</b>			
スクーリングでは、メディア・ジャーナリズムの社会的文化的意義と学生が企画した授業の相互評価を行う。(第 1 と 6～12 回相当)			
<b>【評価方法】</b>			
レポート 20%、スクーリング 30%、科目修得試験 50%			
<b>【教科書】</b>			
ノーム・チョムスキー(2018)『誰が世界を支配しているのか?』双葉社			
<b>【参考文献】</b>			
伊藤守(2015)『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房			
田中耕治ほか(2012)『新しい時代の教育方法』有斐閣			
吉見俊哉(2012)『メディア文化論 --メディアを学ぶ人のための 15 話 改訂版』有斐閣			
眞嶋俊造ほか編(2015)『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』慶應義塾大学出版会			

